

7月定例教育委員会 会議録

1、開催日時 令和4年7月25日（月）午後2時00分から午後3時15分

2、開催場所 市役所2階 第一会議室

3、出席委員の氏名

教育長 小林 正人

職務代理者 三枝 泰子

委員 小俣 和英、小笠原 幸夫、村上 憲司、遠山 江理

委員以外で出席した職員

教育委員会教育次長、学校教育課長、学校教育課長補佐、生涯学習課長補佐

4、教育長開会宣言

5、会期の決定

6、今回会議録署名委員

三枝 泰子委員、小俣 和英委員が指名される。

7、前回の会議録の承認

職員が6月定例会、7月臨時会会議録を朗読し承認される。

8、報告

①教育長報告

令和4年6月27日から令和4年7月23日までの教育長活動が報告された。

②指定校変更及び区域外就学について

指定校変更2件について、承認を行った事務処理について報告された。

③都留市学校設置条例等改正案の9月定例市議会への提出について

令和5年4月に、旭小学校を禾生第一小学校へ統合することに伴う、学校設置条例、都留市学校給食センター設置条例の改正案について9月定例市議会に上程する

ことについて報告された。

9、その他

【説明】生涯学習課長補佐

- (1) 第90回都留市町別野球大会及び、大会記念イベントの開催について
- (2) ミュージアム都留企画展「美の競演 根付・日本刀」の開催について

【説明】教育委員会教育次長

- (3) 「つる湧水の里ハーフマラソン」の「つる湧水の里ランフェス」への変更について

小笠原委員

町別野球を8月に開催するとのことであるが、新型コロナウイルス感染症が急速に拡大している状況であるが、どのような見通しか。

教育次長

現状では、国や山梨県から行動制限が課されていないため、教育委員会主催の各種事業については、感染防止対策が取れるものに関しては実施していく予定である。今後、まん延防止等重点措置等の対象地域と指定された場合などは、開催の可否について検討することとしている。なお、「つる湧水の里ランフェス」については9月上旬に実施の最終決定を行う予定である。

教育長が、委員に意見や質問を求めたところ、次のとおり学校訪問の実施を通じての意見が各委員より出された。

小笠原委員

教員数が充足されていない学校がある。このような場合、子どもたちの授業規律の低下や学力に影響をおよぼす恐れがあるため、市教育委員会から県教育委員会に早急な補充を行うよう働き掛けを行っていただきたい。また、教員免許を失効している者に臨時免許状の発行を依頼する場合などは、一旦市の教員補助員として雇用するなど柔軟な対応をお願いできれば良いと思う。

また、管理職である校長、教頭の二人供が都留地区外から通勤している場合など

は、地震などの災害時に管理職が学校に来ることができないことが想定され、危機管理上問題が生じる恐れがあるため、管理職のうち1名は地元のを配置すること、小学校に配置する教頭には中学校出身の教員であっても小学校教員免許を有する教員を配置することを県教育委員会に要望をお願いします。

また、経験の浅い若手教職員が多く配置され、学年主任や教務主任も初めて経験する教職員が務めている学校があり、管理職が学校運営に非常に苦勞されている様子が感じられた。教員の年齢や経験年数も充分配慮して、教員のリーダーとなり得る教員を各校に1名は配置することなどについても、県教育委員会に要望をお願いします。

小林教育長

教員の人事配置は、これまでも様々な機会を通じて県教育委員会に依頼しているが、今後も継続して要望していく。

三枝委員

教育委員が、学校を訪問し授業を直接見ることは、非常に有意義なことである。

学校訪問を通じて、現在の教室には授業を行う教員の他に教員補助員やSATの学生など多くの者が入っているが、以前の40人を一人の教員が担当していた時代と比べて、授業を行うことの難しさを改めて感じた。特性のある児童・生徒が増加しているといった子どもの変化もあるが、子ども一人ひとりの困り感に寄り添えきれていないのではないかと感じた。現在も、そのような特性のある児童などには、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが関わってくれているが、それでは十分ではなく、市独自で臨床心理士等の専門家を配置し、その子の置かれた家庭環境を含めてフォローしていくような体制を構築していくことが、教員の安心感にも繋がるものと考えている。臨床心理士等の専門家をすぐに置くことは難しいが長期的な課題とし検討していく必要がある。

村上委員

教員補助員等の配置で手厚い支援を行うことで、周りがやってくれ、自ら考え行動するということ疎かになる可能性がある。新型コロナウイルス感染症の影響で学校現場に外部の人が入る機会が減少したことで、教員が自らの授業を見直す

ことなどで自身の力量を増加されるような機会が得られなくなっている。

小林教育長

子どもと教員との間で良い関係づくりをするためには、教員の力量が大切になり、教員のレベルアップが必要である。学校訪問のような人に授業を見られる機会を持つことは非常に有意義であるという委員の皆さまの意見を参考に、今後の対応を検討する。

遠山委員

電子黒板やタブレットの使用に学校により違いがあると感じた。ある学校では、低学年児童でもタブレットを良く使っていると感じられたが、学校によっては高学年児童でも使用がままならないといったところもあった。タブレットなどについては、積極的に使用し、子どもたちの興味が湧くような授業を進めていただきたい。

小俣委員

金融機関でも各支店のトップが代わると、支店の雰囲気ガラリと変わるということがあった。同じ様な規模の学校を2校比較したところ、両校の様子に大きな違いを感じた。

三枝委員

クラスの状況等から、不安を感じる学校もあった。

以上のとおり報告がなされるとともに、意見が出された。

【 了 知 】

10、教育長閉会宣言